

ウ 人権が尊重される授業の実践例

ここでお示ししている実践事例は、教育センター講座の中で提示したもので、佐賀県人権・同和教育研究協議会 人間関係づくり研究委員会『2013年度版「子どもとつながる」 2014年度版「子どもと子どもをつなぐ」実践編』（2015年度版）から引用したものです。そのため、原文のまま掲載しています。

(小学校 実践事例) 第2学年 算数科

佐賀県人権・同和教育研究協議会 人間関係づくり研究委員会
『2013年度版「子どもとつながる」 2014年度版「子どもと子どもをつなぐ」実践編』（2015年度）に掲載されています。

- 1 単元名 新しい計算を考えよう
- 2 本時の目標

○問題の場面を読み取り、基準量といくつ分を見分けて式を立て、説明することができる。

3 チェックリストから見える授業づくりについて

2 人権が尊重される授業づくりチェックリスト

(3点：よくあてはまる 2点：あてはまる 1点：あまりあてはまらない)

項目	3点	2点	1点
①授業の中で「わからない」と言える雰囲気がある。	○		
②疑問に思うことをすぐに尋ねられる場・機会を設定している。		○	
③多様な意見や考え方(発言)を大切に取上げている。		○	
④「わからないことは恥ずかしいことではない」「疑問を出すことはすばらしいことだ」という価値観を普段から育てている。		○	
⑤誰の発言も尊重されている雰囲気がある。		○	
⑥友だちの発表に注目しようとする雰囲気がある。	○		
⑦授業内ですべての児童生徒たちが発言できる機会をつくっている。		○	
⑧発表はみんなのほうを向いて行われ、発表を聞くとき、発表者のほうを見るなど、傾聴の雰囲気がある。	○		
⑨友だちの意見に傾聴付けて自分の意見を発表するよう支援している。		○	
⑩多様な意見が出される授業展開を工夫している。		○	
⑪友だちの意見に対して相互に評価させるようにしている。			○
⑫お互いの努力や成長を評価させる機会をつくっている。			○
⑬友だちと協力して導かれた結論が、集団の成果として共有されている。		○	
⑭つまづいている友だちに対して、教え合いや励ましなど、温かい雰囲気がある。		○	
⑮授業の中で児童生徒が協力する場面を設定している。	○		
⑯協力できる友だちを徐々に増やし、様々な友だちや男女間の協力が進むようにしている。		○	
⑰友だちを決めつけず、できない・やらない理由を丁寧に聞き出し、自分たちの課題として受け止めようとする雰囲気がある。			○
⑱友だちにとって本当にためになる(優しい・難しい)かわりをするようとする雰囲気がある。		○	
⑲友だちのがんばりや励ましを受け止めて、自分も努力しようとする雰囲気がある。	○		
⑳自分たちで主体的に取り組める課題を設定している。			○
㉑その日の学習についてのふり返りの場を設定している。			○
㉒学年などで授業の手法や発問などについて一致させて進めている。		○	
㉓一言授業の中でも、ペア学習やグループ学習などを取り入れている。	○		

合計得点	◎	○	△	授業づくりのようす	おすすめの手立て(レシピ集)
9 /12	12 ~ 10	9 ~ 7	6 ~ 4	疑問や不安を言える 雰囲気の授業	ペアトーク 書いたものを見せる 旅行学習 意見を写す
10 /12	12 ~ 10	9 ~ 7	6 ~ 4	誰をも尊重する 雰囲気の授業	発表のようすを見守る リレー指名 指名なし発表 秘密のマイク 子どもたちによる学習課題設定
8 /15	15 ~ 12	11 ~ 8	7 ~ 5	相互の高まりや認め合いがある 雰囲気の授業	お互いの発表・評価の場や認め合う場の設定 意見の練り合い・高め合い
7 /9	9 ~ 7	6 ~ 5	4 ~ 3	協力・助け合いがある 雰囲気の授業	教え合い・見せ合い
6 /9	9 ~ 7	6 ~ 5	4 ~ 3	ともに生きる仲間としての かわりがある雰囲気の授業	グループ発表 教え合い・見せ合い 自分の役割を探る場
7 /12	12 ~ 10	9 ~ 7	6 ~ 4	授業の設定と指導が 統一された授業	子どもたちによる学習課題設定 ふり返りカード

人権が尊重される授業づくりチェックリストを活用してこれまでの授業を分析した結果、**ウ**相互の高まりや認め合いがある雰囲気の授業づくり、**カ**授業の設定と指導が統一された授業づくりの点数が低いことわかった。ペアや学級全体で意見を交流し、自他の考えを認め合うことのできる学習活動や、学習のふり返りの時間を確保したい。

4 人権が尊重される授業づくりの視点

① 自己存在感

- ・子どもと教師でめあてとまとめを作り「授業に参加している」という実感を持つことができる。

② 共感的人間関係

- ・話し合い活動(あいあいタイム)を通して、自他の考えを認め合うことができる。

本学級では、これまでどの児童にも自分の考えを説明する機会を多く持たせることを意図して、ペア学習を取り入れてきた。その結果、ノートに書いた式や図などを示し自分の考えを相手に伝えようとする態度が見られるようになってきた。しかし、友だちの説明に対してはだまって聞くだけになってしまったり、よく考えないで「いいと思います。」と答えたりすることも多い。

そこで、あいあいタイムに「おもい」の視点でのサインを取り入れ、自分の考えを相手に分かってもらえているか確かめながら伝えようとする態度や、うなずいたり自分と友だちの考えの同じところや違うところを考えながら聞いたりする態度を身につけさせるよう指導してい

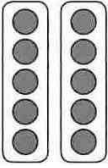
お・・・同じ考えだ！(おなじです)
い・・・いい考えだ！(いいと思います)
も・・・もう少し詳しく聞きたい
(もっと聞きたいです)

きたい。

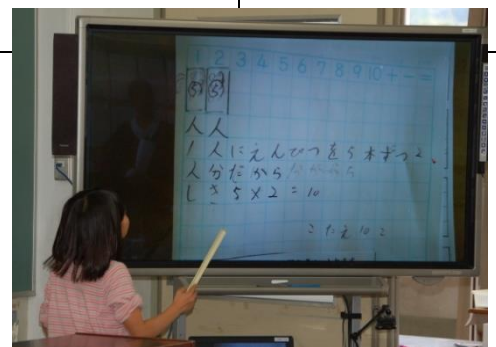
また、TTを取り入れ個別指導が必要な児童に対してヒントコーナーを利用させるなど、きめ細やかな対応ができるように留意し、学習内容の理解を確実なものとしていきたい。

5 本時の展開 (22/25)

	学 習 活 動	教師の働きかけ(○) 評価(◆)		視点の 具体的方策
		T 1	T 2	
つ か む	<p>1. かけ算の立式の仕方を想起する。</p> <p>① えんぴつを1人に2本ずつ5人にくばります。えんぴつはぜんぶで何本ありますか。</p> <p>2. 問題, 課題をつかむ。</p> <p>② えんぴつを2人に5本ずつくばります。えんぴつはぜんぶで何本ありますか。</p>	<p>○ ①の問題の式を立てさせ、かけ算は1つ分の数×いくつ分で求めることを確認する。</p> <p>○ ①②を比べて気付いたことを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1人に2本→2人 ・ 2本ずつ→5本ずつ ・ 一人分の数がない。 	<p>○人の絵, 鉛筆の絵を見せ、1つ分の数, いくつ分を示す。</p> <p>○違いに気づけるようヒントや助言を与える。</p>	<p>①自己存在感 児童と一緒にめあてを作る。 *子どもたちによる学習課題設定</p> <p>①自己存在感 児童の学習意欲や習熟の度合いを把握し、ヒントカードを与える。</p> <p>②共感的人間関係の育成 ・「おいも」の視点で聞く。 ・図や式を示し、「ここまでいいですか。」と確かめながら伝える。 *ペアトーク *意見の練り合い・高め合い</p>
見 通 す	<p>3. 解決の見通しを持つ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">どんな式になるのか考えて、りゆうをせつめいしよう。</p>	<p>○ 問題文の場面を絵や図などに置き換えるとよいことに気付かせる。</p>	<p>○人の絵, 鉛筆の絵を示す。</p>	
調 べ る	<p>4. 課題について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自力解決 	<p>○ 机間指導をし、図や絵で1つ分の数やいくつ分を表したり、ことばで説明を付け加えたりするよう助言する。</p>	<p>○ヒントコーナーで操作活動をする児童がいる場合はその支援をする。</p>	
確 か め る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2人組であいあいタイム ・ 相手に分かるように話す。 ・ 「おいも」の視点 <p>お・・同じ い・・いい考え も・・もう少し聞きたい</p>	<p>○ 自力解決が終わったペアからあいあいタイムを始めさせる。</p> <p>○ 説明の後「おいも」のサインをさせるようにする。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体であいあいタイム ・ 自分との異同を考えながら聞く。 	<p>○ 数名の児童の図と式を示し、説明させたり、他の児童に友だちの考えを推しはかって説明させたりする。</p>	<p>○説明の補足を行い、考えの良い点に気付かせるようにする。</p>	

ま と め る	 $5 \times 2 = 10$	<p>◆ 1つ分の数・いくつ分を見分けて図や絵に示し、かけ算の式の意味を説明することができる。(ノート、発表)</p> <p>→ 場面の絵を見せたり具体物を動かしたりしながら1つ分の数をおさえ、かけ算の立式をさせる。</p>	①自己存在感 児童と一緒にまとめを作る。
	5. 学習のまとめをする。	<p>○ ①と②は答えは同じでも式の意味するところは違うことを確認させる。</p> <p>○ ①②それぞれの場面の違いを図で示して確認させる。</p>	
	6. 適用問題を解く。	<p>かけ算の問題では、「1つ分の数」×「いくつ分」になるように式を立てるとよい。</p> <p>○ 図や絵で場面を確かめ、式を立てるようにさせる。</p> <p>○ 問題を提示し、解答を確かめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3こずつ4ふくろ → 3×4 ・ 4こずつ3ふくろ → 4×3 	
7. 本時の学習を振り返る。	<p>◆ 1つ分の数・いくつ分を見分けてかけ算の式を立てることができる。(ノート、発表)</p> <p>→ 絵や図を示し、1つ分の数・いくつ分をおさえ、立て式できるよう個別指導をする。</p> <p>○ 本時の学習を振り返って自己評価させ、簡単に感想を書かせる。</p>		

みかんが□こずつ入っているふくろが□ふくろあります。みかんはぜんぶでなんこありますか。

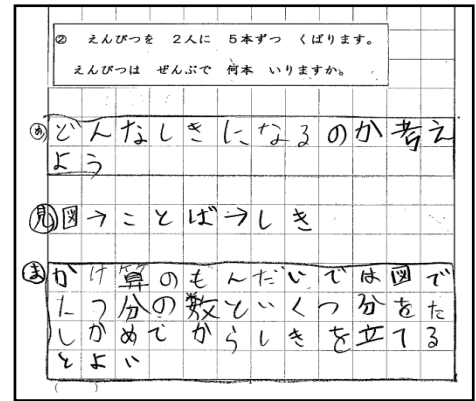


6 考察

(1) 視点について

①自己存在感

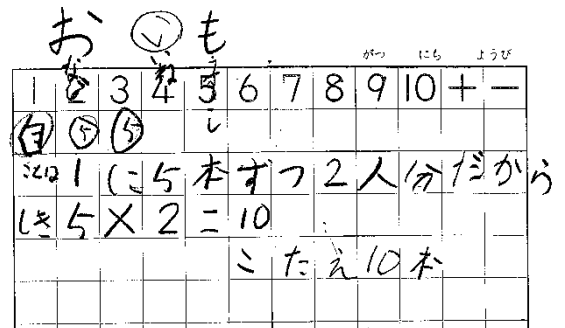
学習のめあてを教師と一緒に考えることで、今日の学習でどんなことを考えればいいかを考え、意欲的に学習に参加することができた。まとめの場面でも、自分なりの言葉で表現するために、学習内容をもう一度ふり返りわかりやすくまとめようとしていた。



②共感的人間関係

2人組でのあいあいタイムでは、「おいも」の視点を与えることで自分と友だちの考えの同じところや違うところを考えながら聞いてサインをしていた。また話す方はノートを指さしながら説明したり、「ここまでのいいですか」と尋ねたりしながら、自分の考えを分かってもらおうとしていた。全体でのあいあいタイムでも、説明の途中で「続きが言える人」と尋ねて続きを別の児童に発表させた。子ども達は友だちの考えをよく聞き、続きを考えて発表していた。

このように相手の考えを認め合う活動を続ける中で、学習のふり返りのなかにも、自分のことだけでなく友だちのがんばりを認めるような記述が出てきた。



	ばっちり!	まあまあ	ずこし	ファット!	今日算数で
きょうの べんきょうは わかりましたか?					さしかをかくのもかんは
いっしょうけんめい かんがえることが できましたか?					アてたので、1ま、くも かん
じぶんのかんがえを つたえたり ともだちのかんがえを きいたり しましたか?					1つ、2つ、できるよ、うに なるよ、いいです。

(2) 成果と課題

算数科の中でも学習の中に「あいあいタイム」を設け、話し合い活動を取り入れている。ペアや全体での話し合いの場で自分の考えを友だちに説明する際には、相手意識を持ちわかりやすく伝える工夫をさせた。また、友だちの考えを聞く際にも、視点を明確にして聞かせるようにした。このような話し合い活動を繰り返す中で、自分の思いを伝えたり友だちの考えを受け止めたりする力がついてきている。

これからも各教科・領域の中で、人権教育の視点に立った授業の工夫を進めていくことで、子どもと教師、子どもと子ども、学級みんなが関わり合って仲間とともに生き生きと学び合う子どもの育成をめざしていきたい。